

(11) 防災・安全教育研究会

会 長 北代あかね (利岡小)
副会長 平野 幸 (中村小)
事務局 横山 渉 (中村中)

1. 研究主題 「僕も君も助かる、実践的防災・安全教育」

2. 研究経過

実施年月日	研究のあらまし	会場	備考
令和7年5月7日(水)	四万十市教育研究会 組織総会 内容：役員選出、研究主題決定、夏季研修計画	中村中	25名参加
令和7年8月1日(金)	四万十市教育研究会 夏季研修会 講師：柿葉 十四郎さん(黒潮町役場情報防災課) 講話：「防災教育について」 演習：「ロープワーク、担架搬送」体験	中村中	21名参加

3. 令和7年度 四万十市教育研究会 夏季研修会

日時：令和7年8月1日(金) 8:30～11:30

講師：柿葉 十四郎さん(黒潮町役場情報防災課)

(1) 講話「防災教育について」

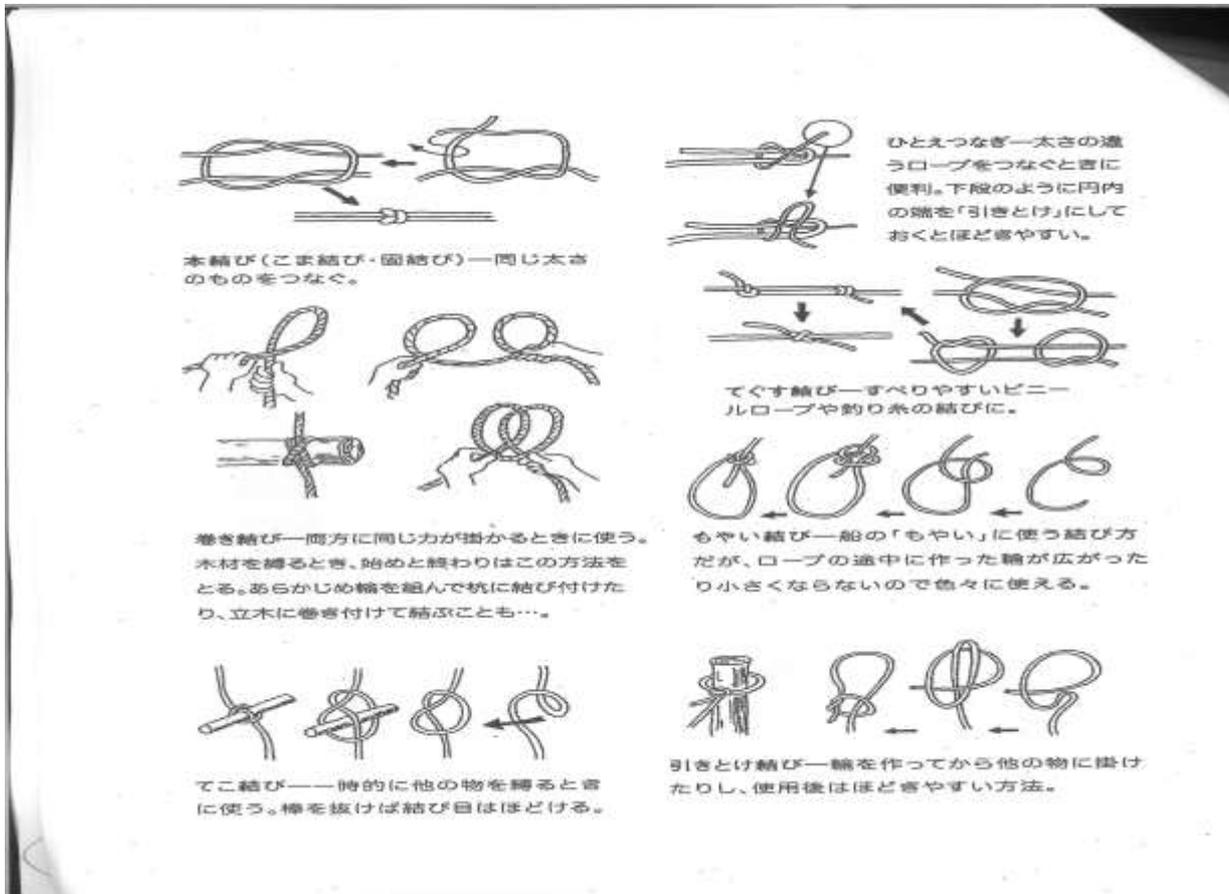
講師の柿葉さんは、2011年の東日本大震災発生当時は被災地に派遣され、救助・捜索活動に従事した経験を有する元自衛隊員である。まず初めに自衛隊の役割や災害派遣における自衛隊の主な任務について教えていただいた。次に、今後高い確率で発生が予測されている南海トラフ地震について言及があった。過去の記録から正しい知識を得ることは必要であるが、二つとして同じ災害規模はなく防災教育において固定的な想定に捉われる危険性を指摘された。また、柿葉さんは「本当は人に話したくない体験がある」と前置きしたうえで、東日本大震災における救助活動の一場面について語ってくれた。それは、東日本大震災で甚大な被害を受けた大川小学校周辺での活動である。捜索活動に従事した当時の心情や避難所の様子などについてお話を聴くことができた。講話の終盤には「公助は何日後に来るか分からない」という現実的視点が提示され、子どもたちが自分の命は自分で守れるように、教育者として日頃から防災教育の視点を持ち続けて教育活動を行っていくことが重要であるという強いメッセージが送られた。



(2) 演習「ロープワーク・担架搬送」

講話後、災害時に活用される基礎的技能として、ロープワークの体験活動が実施された。基本的な結び方として「本結び」「巻き結び」「もやい結び」等の方法が紹介され、それぞれの結び方が持つ特徴や用途を示してくれた。

また担架搬送では、傷病者を正しく搬送することは、正しい応急処置と同様に重要であるということや傷病者の安静を確保しつつ、限られた人数でも安全に搬送する方法について教えていただいた。



4. 今年度の成果と課題

災害を自分事として考え、防災教育の在り方を捉え直す機会となった。特に、大川小学校周辺での救助活動に関する体験談は、未来の命を守るための学びについて深く考えさせられるものであった。また、自衛隊の活動を知るとともに助けが届くまでの時間を私たちはどう生き抜くかという視点を持つことができた。

一方で、防災を特別な学習に留めない工夫が必要である。年間指導計画の中で、教科横断的に扱い、備蓄確認や避難経路の再点検など具体的行動へと結び付ける仕組みづくりも求められる。また、地域との連携強化を図り、実践的な防災力の育成に努めていきたい。災害はいつ発生するか分からない。しかし、備えることは今日からできる。今回の学びを学校全体の防災体制の向上へと生かしていくことが、私たち教職員の責務であると強く感じた。